

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271400226		
法人名	有限会社 すこやかさん		
事業所名	グループホームすこやかさん		
所在地	千葉県香取市与倉869-1		
自己評価作成日	平成22年11月8日	評価結果市町村受理日	平成23年1月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2-10-15		
訪問調査日	平成22年12月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームすこやかさんは、デイサービスが併設されている為、少人数では開催が難しい運動会や納涼祭を一緒に実施して、合同行事を通じて交流を図っています。又、ボランティア、慰問の方々が多く来所しており、イベント時には一緒に参加され楽しまれています。常勤の栄養士が、食事の相談に応じています。グループホームの常勤看護師に加え、併設のデイサービスや居宅介護支援センターにも常勤看護師がいる為、緊急時には状態に応じて相談や助言を得て早めの対処ができています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームの運営者は、地域に古くから根を下ろし事業を展開してきており、利用者もまた地元の方で、気心の知れた安心できる環境下で共同生活を送っている。広い敷地に当ホームすこやかさんとデイサービス2事業所を併設し、双方の看護師の協力によって、医療面で不安なく生活できる体制をとるなど、相互の機能を活かした交流が図られている。法人の理念として「地域に根ざした介護サービス」を掲げており、地域の保育園児の訪問、小中学生の職場体験、高校生の授業の一環としての実習の受け入れ、市からの要請の新任教諭の研修等、地域と利用者との交流に力を入れ、介護サービスの向上に繋げている事を高く評価する。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの特徴を生かし、毎月の会議や日々の申し送りの際、理念を確認し努力している。	理念に「一人ひとりの個性や気持ちを大切にし、自分らしく生きていることを実感できる」ことの支援をうたっている。利用者の「いつでも私は出来るんだから」と言う気持ちを大切に、その人なりの良い所を活かした生活の支援を通して、理念に基づいた実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	お祭り等の地域行事への参加や市内の小・中学校の運動会など学校行事参加したり、慰問などボランティアの方々の訪問が多くある。	小学生や中学生の職場体験学習を積極的に受け入れている。児童から寄せられた感想文に、施設での体験が語られており、認知症の人の理解に貢献している事が読み取れた。高校生の介護実習での定期訪問や保育園児の訪問、地域行事の参加など、利用者を中心とした地域との多岐にわたる交流に取り組んでいる点を高く評価する。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議を開催したり、小・中学校の職場体験学習や高校生ボランティアの受け入れを行っている。新任中学校教諭の福祉施設実習の受け入れもやっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	評価結果は、運営推進会議や家族へも報告し、話し合いによる意見をサービス向上に活かすよう努めている。	運営推進会議は年2回、市介護保険課職員や地域包括支援センター、区長、民生委員、家族代表の参加で開催されている。処遇計画や防災計画、外部評価等多彩な内容で討議され、家族からの質問も多く出され、活発に運営されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護保険課主催の研修会や認知症の研修会等の勉強会へ参加している。	年4～5回開催される市主催のグループホーム連絡会に毎回職員が出席し、運営上の相談や研修を受け情報交換の場としている。市介護保険課とは運営推進会議の出席を含め、常時良い協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束禁止について勉強会や研修にて理解している。日中は玄関やテラスの施錠はせず、身体拘束はしていない。	身体拘束をしないということは研修等で理解されている。職員は利用者の話をよく聞く事で、身体拘束に繋がらないケアを心がけている。どうしても外出したいという希望には見守りで対処するなど、利用者の気持ちを職員が大切にしてケアに臨んでいることが随所に感じられる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止については、勉強会において学んでいる。 入居者の心身の状態については、日々注意し申し送りにより把握に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は認知症研修会等に参加し、日常生活自立支援事業や成年後見人制度について学んでいる。成年後見人制度を利用されている方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、入居者や家族に施設内を見学していただき、話し合いの場を設け、不安や疑問に対し十分な説明を行い理解を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族とは、意見や要望を話し合える関係作りに努めている。意見や要望は、会議にて検討し、改善に努めている。	利用者や家族の意見、要望を話し合う機会が設けられ、親切で温かみを持って聴取されている事がアンケート調査の高い満足度からも伺う事が出来る。出された意見や要望は会議で検討し、ケアプランに反映させている。サービス計画書作成時に家族が参加し、意見を反映させる仕組みも取られている。	管理者は、親しくなればなる程、家族の本音が出にくくなっていく事を感じている。家族会などを利用して、より広く細やかな意見や要望が寄せられる工夫を、次のステップとして期待する。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議の際に意見や提案を聞く機会を設けている。日常的にも職員が意見が言える。	施設長は月一回の会議に出席し、設備の改善やケアプランの見直し、行事について職員の意見を聞く機会を設け、積極的に運営に反映させている。職員の親睦会を援助して職員間の交流を図ると共に、常に意見や提案を出し易い環境作りを心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月、代表者参加の会議をし、改善点があれば、その都度検討している。介護職員処遇改善交付金も最初から申請し、支給されている。又、新年会等外食を取りながらコミュニケーションも図っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修会等に積極的に参加できる機会があり、会議で内容の共有にも努めている。レベルアップの為、毎年国家資格等の受験を奨励している。内外の研修に対しては、その都度、研修費として賃金の支給がある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に加入しており、定期的に同業者との勉強会等へ参加している。情報交換し、相互のサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時に本人の不安を取り除く配慮をしながら十分に話し合いをし、信頼関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の際に、不安や困っていること、要望等を伺って、十分話し合いをし、信頼関係作りに努めている。併設のデイサービスからの入居者が多く、不安感が少ない。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の要望を聞き、職員間で必要なサービス提供の為の話し合いをして、選択の機会を提供できるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の人格を尊重しながら支援し、畑仕事や生活共同作業を通して、信頼関係を築き、職員の学びにもつながっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎年家族会を兼ねた遠足会等を企画し、多数のご家族が参加している。利用者、家族、職員三者の関係作りに努めており、質の良い支援につなげている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所者が大切にされてきた知人にも自由に来所して頂いている。併設デイサービスにも知人が利用されており、交流が持たれている。	利用者全員が地域の方で、併設のデイサービスから入所した利用者も多く、通いの知人や馴染みが訪問しあうなど、併設のメリットを活かした支援をしている。家族の訪問が必ず月一回以上あるように、来所での支払いを依頼し家族との絆を強くする配慮をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入所者がより良い関係作りができるよう席の配置に注意をしている。入所者の立場を尊重し、職員が間に入りさりげなく援助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入居者との契約が終了しても、その後の関係を断ち切らない付き合いが出来るように、入院、退所後もお見舞いや訪問をしている。そして家族の相談にも十分に応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの生活に合った暮らし方に配慮しながら、本人の要望等が取り入れられるように努めている。会議において本人の意向に沿った暮らし方を検討している。	職員は利用者の今までの状態や生活歴を配慮のうえ、利用者本人が話した事をよく聞きとることで、思いや意向の把握に努めている。聞きとった事は、ケース記録に書きとめられ、申し送りによって職員全員が共有化している。その中で重要な点があれば会議で検討しケアに反映させるなど柔軟な支援に繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人の人権を尊重しながら、今までの生活歴や生活環境に配慮ができるよう努めている。昔馴染みのほうき、お手玉等も用意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の生活リズムを考えながら生活状況に配慮し、総合的に把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の面会時や連絡時に、本人の状況報告と共に意向を話し合い、介護計画やモニタリングに生かせるようにしている。	家族との面会時や日常のケアで、課題となった問題点は業務日誌に記され、申し送りによって職員全員が共有化している。計画作成担当者はミーティングで検討されたチームの意見や、家族の参加により意向を反映出来るよう工夫された計画作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の状況の変化等がみられた際は、ケース記録や業務日誌に記入している。又、日々の申し送りの際にも報告し共有している。会議にて検討し、介護計画に反映できるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて受診先を決めている。又、併設のデイサービスへ遊びに行ったり交流を図っている。家族旅行、結婚式等にも自由に外出され対応に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のボランティア・慰問の受け入れや近隣の保育園児の交流を楽しまれている。又、消防署立ち会いによる避難訓練も実際に経験していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を入所後も利用されている。対応が困難な時も主治医と相談をしている。本人や家族とも相談しながら、健康維持に努めている。	ホームの理念に掲げている通り、本人の意思と家族の希望を尊重し、今迄のかかりつけ医での受診が継続して受けられるよう支援している。待ち時間が長い時には利用者の状態を考慮し、予定受診時間を確認して負担のかからない配慮をし、受診を支援している。受診情報は申し送りノートによって共有されている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	グループホームの看護師や、併設のデイサービスの看護師に相談し、適切な受診や看護に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院の際は、病院の経過状況について説明をうけている。退院に向けてのカンファレンスには代表者と管理者が出席し、その後の支援に生かしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所者が重度化した際は、かかりつけ医や施設の看護師、家族とも相談し、今後に向けての支援に努めている。	ホームとして支援出来るところまで支援することを目指しており、入所時家族とも話し合い了解を得ている。急変時にかかりつけ医と相談のうえ、家族が入院を希望する事例が多いが、職員達のぎりぎりまでケアしたい、看取りたいという思いが酌み取れる。	重症化や看取りに関して、家族の協力や医療バックアップ体制を検討し、当ホームの限界も明確にして、最大の支援ができる体制作りを話し合ってもらいたい。研修や勉強会で看取りの際の職員の心のケアについて備えておかれる事を望む。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルがあり、急変時に備えて学習会や研修で学んでいる。又、会議においても看護師により指導を受け、実践力に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎年、消防署立会いで避難訓練を年1回実施している。又、夜間想定や、地震対象の訓練にも取り組んでいる。市役所での緊急時の避難についての説明会に積極的に参加している。スプリンクラーは設置している。	消防署立ち会いの定期的な避難訓練や、夜間想定・地震発生時の訓練も実施している。万が一を考えて食料・介護用品等の備蓄をしており、スプリンクラーも設置して災害に備えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者のプライバシーや人権を尊重している。お互いに人権を傷つけない対応には十分に注意を払い戒めている。	人格の尊重・プライバシーについては、声掛け時の声の大きさと、利用者同士のトラブル回避に特に配慮している。難聴の利用者が多いので隣の利用者に聞こえないよう耳元で囁くように伝えたり、仕草等で対応している。利用者同士が相手の人権を傷つけるような事を言ってもめた時は、間に入って説明し双方納得のいくよう解決に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活や誕生会、買い物にも本人の希望を伺い対応している。又、自由に思いを表現できるよう働きかけながら、自ら決定を促している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れや個別に計画を決めているが、本人の希望に配慮しながら柔軟に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の身だしなみや、洋服選び等、本人の意思を尊重しながら、その人らしいお洒落ができるよう支援している。有償、無償のボランティアの理・美容師にも来所していただいたりして御本人の希望を聞いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材を切ったり、お茶入れをしたり各自が自分で出来るお手伝いをしていただいている。好みの食事やおやつを手作りし、食事が楽しみなものになるよう支援している。又、外食の機会を設けている。	利用者にとって食事を作ること・食べる事共に楽しんでいる。料理への希望は毎日のようにあり、各自が出来る範囲の手伝いをしていく。職員は利用者と一緒に食事をし、始終明るく振る舞って皆が和める雰囲気作りを自然な形でやっている。昼食はデイサービスの調理室で調理し、朝・晩食はユニット毎にある調理室で利用者の希望を入れながら調理している。外食をとり入れるなど行き届いた配慮がなされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態を考慮しながら、かかりつけ医の指示に応じた栄養摂取や水分量、習慣に気をつけている。栄養士による栄養管理も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、緑茶によるうがいや、歯磨きをしている。就寝前には、義歯を洗浄し、清潔保持に努めている。その効果が導入前より風邪等の予防になっていると思う。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄リズムに合わせ、トイレ誘導や声掛けをしている。本人の状態に応じて、オムツの使い分けやポータブルトイレの使用等、自立に向け配慮している。	出来るだけ昼間のオムツ使用をしない支援を目指している。利用者夫々の排泄パターン・リズムを掴んで声掛け・誘導で対応し排泄の自立を支援している。夜間はナースコールで職員を呼べるシステムをとっていて、必要な利用者にはポータブルトイレを用意などの配慮がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の便秘の原因に配慮した食材を利用したり、水分補給を促したり、運動の働きかけをして予防に努めている。毎週火曜日に作業療法士による予防運動等の指導を受けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々のペースに合わせ、ゆっくりと入浴ができるよう支援している。必要に応じて、デイサービスの特殊浴槽を使用したり、足浴、体調に合わせて清拭等で工夫している。	週に2～3回の入浴を基本としている。毎日の入浴や、朝の入浴を希望する利用者には出来る限り要望に応えられるようにしている。浴室の閉塞感を取り除く為、浴槽のサイドに窓を設置したり、重症化の利用者には併設のデイサービスの機械浴を使うなど、利用者が安心して入浴出来るよう行き届いた配慮がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の生活習慣や体調に応じて休息している。又、夜間に良眠しているよう、日中の活動を活発に行っている。足浴などを取り入れたり、室温、照明に注意し、気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医受診時に説明を受け、状態を報告している。看護師による薬の目的や副作用について再確認を受け、症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の趣味や嗜好に応じて、レクや外出、併設デイサービスとの合同行事もあり、入居者の楽しみを支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族との食事や外出等、普段から自由に戸外へ出掛けられるよう支援している。又、併設デイサービスの大型の介護車を利用して、入居者の希望に沿った外食やドライブ等、戸外での楽しみも提供している。	幾つかのグループに分け、屋外やデッキで日光浴をし外気を吸って気分転換するのを日課にしている。併設デイサービスの2台の車で利用者の希望に沿った外食やドライブも実施している。家族との食事や外出等も支援している。外出をためらう利用者には、声かけを工夫し誘っている。外出の支援体制はよく出来ている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は職員が行っているが、小銭を持って買い物を楽しむ機会を設けている。本人の希望により少額の所持金を自分で管理している方は、定期的に現金チェックを行っている。ご家族にはお小遣い帳をつけ報告している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙のやり取りが自由にできるように支援してる。誕生日や敬老の日には、家族からのプレゼントも多く届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは広くソファ等を設置し、天井も高い為、開放的であり、床はコルクタイルを使用し、安全面にも配慮している。フロアは、季節を感じられる飾り付けを入居者と職員が一緒に行っている。トイレは掛け上げ式で利用し易くなっている。	食堂兼用のリビングルームは広々としており解放感がある。また玄関付近の天井は吹き抜けになっていて採光によく配慮されている。職員がみんな笑顔で接しているので利用者の表情が穏やかである。また大型のソファや約10畳の畳も置かれており、ピアノ・将棋盤などもあって入居者同士の寛ぎの場となるよう多くの配慮がされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファや畳を設置しており、気の合う入居者同士で過ごせるくつろぎの場となっている。天気の良い日にはデッキでくつろぐ事も出来る。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物品の持ち込みも可能であり、室内には写真や折り紙、習字などの作品や、好みのものを飾り居心地よく過ごせるよう工夫している。入居者の中には、自宅でお守りされていた仏壇を置かれている。	居室は広く、クローゼット・洗面台も設置されている。壁には好きなアイドルの写真や習字等自分の作品が貼られていて、使い慣れたベッドや寝具なども持ち込まれ、居心地良く馴染みの生活が継続できるようにしている。更に家族との行き来を大切に、家族の宿泊も可能である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入口には目印となる名前や好みの写真を貼り、できるだけ混乱を防ぐ工夫をしている。各室の時計の位置や洗面所は低位置に設置しており、利用しやすい環境となっている。		